

IGF Japan 学術・研究コミュニティ BoF への呼びかけ

(2011年7月1日版)

インターネットの公正な発展と管理運営における様々な課題は、単一の主体によって解決することはできません。これらの諸課題について、政府・国際機関、産業界、市民社会、技術コミュニティのオープンな参加の下に討議し、問題意識の共有を図ることを目的として、2006年にギリシャのアテネでインターネットガバナンスフォーラム (IGF) の第1回会合が開催されました。

それから約5年が過ぎ、2011年9月にはアテネ会合から数えて6回目となる IGF 会合がケニアで開催されます。日本でも、来る7月21日、22日に京都リサーチパークにて、国内で最初の国別 IGF 会合となる Internet Governance Forum Japan (IGF Japan) が開催されます。

この IGF Japan の開催とあわせて、プログラム2日目(7月22日)の午後、インターネットガバナンスに関連するテーマでの研究に関心をもつ人のための学術・研究コミュニティ BoF (Birds of a Feather) ミーティングを開催します。BoF では、インターネットガバナンスに関する研究の動向、IGF Japan への学術・研究コミュニティとしての貢献のあり方についての意見交換をした上で、IGF Japan のメインセッションへフィードバックする予定です。

IGF は、拘束力をもつ意思決定を行う場ではありません。しかし、その一方で、政府・国際機関、産業界、市民社会、技術コミュニティといったすべてのステークホルダーに等しく開かれた IGF が積み重ねた成果を軽視することもできません。拘束力をもたない IGF が尊重されるのは、すべてのステークホルダーの声そこに反映されているという事実の裏付けがあるからです。

これまで5回開催された IGF では、学術・研究コミュニティに属する大学人・研究者が数多く参加し、討議の方向付けに関わってきました。しかしながら、日本からの IGF 参加者、とりわけ市民社会の一部を構成するはずの学術・研究コミュニティからの参加者は限られてきました。

今回の IGF Japan を意味のある取り組みとするためには、IGF 同様にすべてのステークホルダーがそのプロセスに参加していることが必要です。IGF Japan そのものの意義を高めていくためにも、また日本におけるインターネットガバナンスに関する研究を深めていくためにも、関心のある方のご参加をお待ちしています。

学術・研究コミュニティ BoF 概要

- 日時：2011年7月22日(金) 13:00～15:00 ※IGF Japan のセッションと並行して開催されます。
- 会場：京都リサーチパーク東地区1号館4階・中会議室 A
- 議題：インターネットガバナンスに関する研究の動向、IGF Japan への学術・研究コミュニティとしての貢献のあり方についての意見交換
- 参加方法：所属等に関わらず、どなたでも参加可能です。参加予定の方は可能であれば事前に下記問い合わせ先宛にご連絡いただければ幸いです。当日飛び入りの参加も歓迎します。
- お問い合わせ先：国際大学 GLOCOM 上村圭介 (kmmr@glocom.ac.jp)

IGF Japan 学術・研究コミュニティ BoF 呼びかけ人

- ・ 上村圭介／国際大学グローバル・コミュニケーション・センター (GLOCOM)
- ・ 浜田忠久／市民コンピュータコミュニケーション研究会 (JCAFE)